

日本人満洲引揚者を描く

ワンシーター 王希奇「一九四六」



高知展

墨絵と油絵を融合させた歴史絵画の巨大作品（縦3m×横20m）

葫芦（蘆）島（中国遼寧省）よりの満洲残留日本人の大送還（「引揚げ」1946～1948年計105万1047人）
「あっ、この人は……」

1946（昭和21）年当時を描く、切迫した生命の必死さ。

その一瞬を描きとった迫真の大作。

期日 2021年11月28日[日]→12月5日[日] ※11月29日(月)は休館

開場時間 9:30～18:30 最終日は16:00まで

入場料 前売り1000円 一般1200円 ※学生は無料

会場 高知市文化プラザかるぽーと 市民ギャラリー第1展示室

高知市九反田2-1 Tel.088-883-5011

主催 王希奇「一九四六」高知展実行委員会

後援団体：高知県、高知市、高知県教育委員会、高知市教育委員会、香川県、高知大学、高知新聞社、四国新聞社、徳島新聞社、愛媛新聞社、読売新聞高知支局、毎日新聞高知支局、朝日新聞高知総局、RKC 高知放送、KUTV テレビ高知、KSS さんさんテレビ、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、NPO 高知県日中友好協会、日中友好協会高知支部、高知医療生活協同組合、公益財団法人高知市文化振興事業団、自治労高知県本部、高知県平和運動センター、連合高知

王希奇「一九四六」高知展 開催趣意書

日本敗戦後、旧満洲（中国東北部）にいた日本人約155万人は、過酷で悲惨極まりない状況におかれていました。翌年5月頃からようやく引き揚げが始まり、葫蘆（蘆）島港からは約105万人が引き揚げてきました。その葫蘆（蘆）島港からの引き揚げの象徴的な写真集の中に「母親の骨箱を抱えた子供」を目にした中国人歴史画家・王希奇氏は自らの心の葛藤を乗り越え、「戦争ではいつの時代も弱者が苦しむ。彼らも戦争の被害者だ。」という強い思いのもとに油絵と墨絵の融合による独特の技法で引き揚げ船に乗る憔悴しきった数百人の姿を描き出しました。作品は縦3m横20mに及ぶ大作であり、作者の強烈な平和への願いが感じられます。また、芸術的にも優れた、見る価値のあるものです。

この作品の過去の国内での絵画作品展は、東京都（2017.9.28～10.5）、舞鶴市（2018.9.28～12.2）、仙台市（2019.10.1～10.6）で開催されました。高知での絵画作品展が終了すれば「一九四六」は中国へかえることになっています。

高知県の満蒙開拓団送出数は10482人（人口比 全国3位）で、約2000人が亡くなっています。引き揚げ75周年にあたる2021年、高知で絵画作品展を開くことは大きな意義があると考え、企画しました。

王希奇 略歴

画家。中国錦州市に生まれる。魯迅美術学院油絵学部勤める。中国美術家協会会員。

東洋的墨絵の要素を西洋油絵に自然に融合させた画風で評価される。特に歴史をテーマとする創作を得意とし、その独特な画風とオリジナルな視点で国内外の注目を浴び、既存の流派に属さない独立した芸術家と評される。なかでも、国家金メダルを獲得した《三国志・赤壁の戦い》（合作）、中国国家重大歴史題材美術創作プロジェクト入選作品《長征》、《遼瀋戦没 攻克錦州》（合作）および《官渡の戦い》などの大型絵画が代表作である。油絵のほか、墨絵の《回声》、《高原人》、《聴雷》などの作品も全国美術作品展に入選。数多くの作品が中国美術館、中国国家歴史博物館、中国国家軍事博物館などに収蔵されている。

近年では、2012年から2017年にかけて、葫蘆島港より105万人余の残留日本人の大送還をテーマとした大作《一九四六》（縦3×20メートル）をはじめ、関連するシリーズ作品計50点を制作した。